報告

原子力学会会員は技術士資格を今すぐ取ろう

日本原子力学会 会長 岡 芳明, 副会長 工藤 和彦,
日本技術士会 原子力・放射線部会 部会長 林 克己

原子力・放射線部門の技術士試験が5回行われ、309名の技術士が誕生した。部門設置答申に謳われた制度活用の方針については、各方面からの期待や原子力法制度の見直しの機運とも呼応し、具体化の検討が一挙に進み始めた。本格的運用を始める前には、十分な事前検討とともに各組織での「練習」が必要であり、またそれを行う技術士数はそろい始めた状況である。しかし総合科学技術である原子力で実際に技術士制度を活用するためには各分野の専門家が必要であり、これから運用までに十分な技術士数を増やす必要がある。原子力学会会員は技術士資格をぜひ早く取得いただきたい。

I. 5年間の技術士試験合格者数

原子力・放射線部門の技術士試験は、2001年の原子力学会会長からの部門設置要望を受け、2003年の科学技術・学術審議会の答申¹⁾、法改正を経て、2004年度から試験が始まった。

技術士になるためには、大学の専門課程卒業程度の知識を問われる第1次試験(筆記のみ)に合格し、所定の実務経験年数を積んだあと第2次試験(筆記および口答の2段階)に合格し登録することが必要である。第1次試験の合格部門と第2次試験の受験部門は異なっている。

原子力・放射線部門では、この5年間で第1次試験に累計1,226名、第2次試験に累計309名が合格している。合格者数の推移と累計を第1、2図に示す。

第1次試験合格者は初年度は472名と多かったが、その後、150~200名/年で推移している。合格者の所属は、メーカー、電力、研究機関、大学が5:3:3:1の割合であり、少ないながら、官庁、病院からも合格者が出ている。合格率は平均80%程度であり、全部門の平均である約40%の約2倍となっている。

第2次試験合格者は、あらかじめ別部門の第1次試験に合格した方だけ受験した初年度は21名と少なかったが、その後、50~100名/年で推移している。合格者の所属は、メーカー、電力、研究機関が2:1:1の割合であり、官庁、病院からも合格者が出ている。合格率は平均38%程度であり、全部門の平均である18%の約2倍となっている。所属別の合格者数や、選択科目別(原子炉の設計・建設、運転・保守、核燃料サイクル、放射線利用、放射線防護の5つ)の合格者数と合格率は日本原子力学会の技術士情報ページ²⁾に掲載されているので参照されたい。

第1図 技術士第1次試験合格者数の5年間の推移と累計

第2図 技術士第2次試験合格者数の5年間の推移と累計

II. 技術士制度はどう使われるか

1. 部門設置目的とその達成度

原子力・放射線部門はどのような目的で作られたのだろうか。部門設置答申¹⁾では必要性和効果を次のようにまとめている。

・近年の原子力技術に関する社会的認識と視点の変化から、国や組織としての安全性等の担保にあわせて、技術者一人一人が組織の論理に埋没せず、常に社会や技

AESJ Members are Encouraged to Get PE Qualification :
Yoshiaki OKA, Kazuhiko KUDO, Katsumi HAYASHI.
(2009年 2月22日 受理)

来の事業者審査における役割を果たす訓練となる。さらに、組織外部に向けて技術士関与とともにレベル向上に対する組織の姿勢を示すことができる。同時に、外部にも技術士関与を促しレベルを上げる効果を期待することができる。

これらを行うことにより、事業者審査に本格的に活用する場合の組織内に必要な技術士数をつかむことができる。また将来の法制度での審査にあたる組織内外技術士の選定責任は事業者になると考えられることから、選定に関する各組織の基準作りの一助にもなると考えられる。

(3) これ以外にも

技術士制度利用についての特集「原子力と技術士—その制度利用の可能性」⁵⁾には業界・学界のオピニオンリーダー各氏からの提案が示されているので、ぜひ一読されたい。また前述の制度活用に関する提案書²⁾には職域ごとの様々な提案がまとめられているので検討されたい。

Ⅲ. どんな準備をすればいいのか

1. 必要人数は

原子力・放射線分野の技術者は約4万人といわれている。事業者審査に移行するときは、審査にかかわる技術士がその分野の設計者の5～10%と考えればかなり多く必要となることがわかる。原子力学会の会員は現在約8,000人であり、2割の方に技術士資格を取っていただければ合計5%程度となる。原子力・放射線分野でも技術士制度が早く活用できるよう、会員諸氏の受験をお願いしたい。

2. 今年の技術士試験

今年の試験日程⁶⁾は以下のようになっている。

〔第1次試験〕

●受験申込

(インターネット) 6月1日(月)～15日(月)

(郵送及び窓口) 6月16日(火)～7月3日(金)

●筆記試験 10月12日(月・祝日)

〔第2次試験〕

●受験申込

(インターネット) 4月1日(水)～16日(木)

(郵送及び窓口) 4月17日(金)～5月7日(木)

●筆記試験(総合技術監理部門) 8月1日(土)

(その他の20部門) 8月2日(日)

●口頭試験 12月～1月の指定された1日

試験の概要は、日本原子力学会 技術士情報ページ²⁾にまとめられているが、毎年、原子力 eye 誌に掲載されている対策講座シリーズ⁷⁾や、受験体験談⁸⁾なども参考となる。

Ⅳ. おわりに

原子力学会からの要望でできた原子力・放射線部門であり、これからの本格的な活用に向けて産官学の原子力関連組織が準備を行っていただきたい。また、各組織に属する技術者—特に学会員諸氏—にはすぐに技術士資格を取得されることをお願いする。

—参考資料—

- 1) 技術士試験における技術部門の見直しについて(答申), 平成15年6月2日, 科学技術・学術審議会.
- 2) 日本原子力学会 技術士情報ページ
<http://www.aesj.or.jp/gijyutsushi/index.html>
- 3) 日本技術士会 原子力・放射線部会ホームページ
<http://www.engineer.or.jp/dept/nucrad/open/index.html>
- 4) 「柏崎刈羽原子力発電所 復旧状況の第2次現地調査」
<http://www.engineer.or.jp/topics/kahou2-index.html>
- 5) “(特集)原子力と技術士—その制度利用の可能性”, 原子力 eye, 54 [12], (2008).
- 6) 日本技術士会 試験・登録情報ページ
http://www.engineer.or.jp/examination_center/index.html
- 7) “平成21年度技術士試験「原子力・放射線部門」対策講座 第1回～第5回”, 原子力 eye, 55 [1～5], (2009).
- 8) “(特別企画)座談会 私はこうして技術士(原子力・放射線部門)試験を突破した”, 原子力 eye, 54 [10], (2008).

著者紹介

岡 芳明(おか・よしあき)

東京大学
(専門分野)原子炉設計, 原子炉物理, 原子炉安全工学

工藤和彦(くどう・かずひこ)

九州大学
(専門分野/関心分野)原子炉物理, 原子炉安全工学, 原子炉工学/原子力教育

林 克己(はやし・かつみ)

日立 GE ニュークリア・エナジー
(専門分野/関心分野)放射線遮蔽/原子力・放射線分野における技術士制度活用